

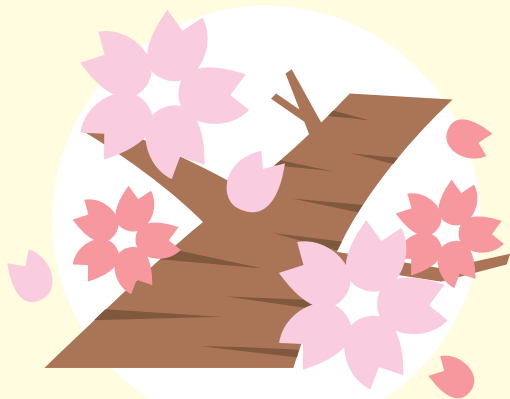
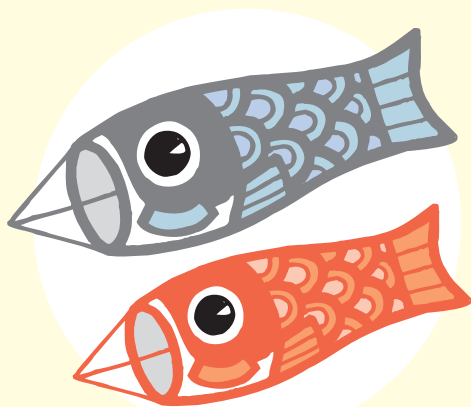


岩倉市



食育推進計画

～『い・わ・く・ら』で始める 食が育む豊かな心！～



岩 倉 市

平成22年1月



食育の推進に向けて

わたしたちのまち岩倉は、濃尾平野の肥沃な土壌のもと昔から都市と田園のバランスが取れた近郊農業の盛んなところでありました。わたしたちの子ども頃は地元の米や新鮮な野菜など季節の食材が食卓に並び、それを囲んで家族一緒に食事をとってきました。現在は、食べ物は比べ物にならないほど豊かになりましたが、心の問題や環境問題など様々な分野で改めて食というものが見直されています。また、昨今世界の食糧事情が問題視されたとき、わが国の食料需給率のあまりの低さが再認識されました。

岩倉市では以前から学校や保育園での給食に地元産の米や野菜などを使っています。また、年に1度ではありますが岩倉の特産物である名古屋コーチンを使った学校給食のメニューも取り入れ地産地消に努めてきました。さらに岩倉駅東西地下連絡道の野菜の広場に加え、今年度からはJA愛知北産直センター産直部会からも地元野菜が搬入されるようになりました。これからも野菜の広場や平成20年にリニューアルされたJA愛知北産直センター岩倉店などで地元農産物が安全安心に提供していただけますことを期待しています。

さて今回この計画では農業・教育・消費者・健康・福祉のそれぞれの関係団体の関係者の皆様のご協力をいただき、それぞれが個々に取り組まれていたものを体系的に取りまとめこれからの岩倉の食育の取り組みの指針とするものであります。食は、私たちが生きてく上で欠くことのできないものであり、食事は本来楽しいものでなければなりません。

将来のある子どもたちが食を通じて豊かな心を育てほしいという思いをこめて、市民、事業者、行政の協働のもと「岩倉市食育推進計画」の基本である「～『い・わ・く・ら』で始める 食が育む豊かな心！～」を推進してまいります。

関係者の皆様にはますますのご協力をお願いします。

平成22年1月

岩倉市長 片岡 恵一

目 次

食育の推進に向けて 岩倉市長 片岡 恵一

第1章 食育の推進に関する基本的な考え方

1 計画策定の趣旨	1
2 計画の背景	2
(1) 食環境の変化	2
(2) 食生活の変化	2
3 計画の位置づけ	4

第2章 岩倉市の食をめぐる現状

1 人口・世帯構造の変化	5
2 食生活の現状	7
(1) 乳幼児の食生活	7
(2) 小中学生の食生活	10
(3) 大人の食生活	17
3 市民の食育に対する関心事項について	23

第3章 食育推進の基本的考え方

1 基本理念	25
2 基本方針	25
3 基本方針の考え方と行動目標及びその施策	26

第4章 計画期間と推進体制

1 計画期間	34
2 計画の推進体制	35

その他

岩倉市食育推進計画策定委員会設置要綱	36
岩倉市食育推進計画策定委員会委員名簿	37
計画策定の経過と体制	38

第1章 食育の推進に関する基本的な考え方

1 計画策定の趣旨

古来、私たち人間は、食を通して豊かな文化を築いてきました。また、健全な食生活を営むことで生きる力を育んできました。日々の営みの中で「食」は欠かせないものであるにもかかわらず、豊かさに慣れた私たちは、食というものを当たり前にとらえ、不規則な食事や偏食、欠食、過食、食べ残し、廃棄などを繰り返してきました。また、食料自給率（カロリーベース）は5割を切る状況であります。

生涯を通して明るく充実した生活を送るためには、食事や運動等、健康的な生活習慣を身につけ、生活習慣病を予防することが重要です。なかでも、次世代を担う子どもたちの食生活は、心身の成長だけでなく、基本的な人格の形成にも大きな影響を及ぼします。しかし、近年では、子どもたちだけでなく親世代にも食生活の乱れが生じており、大人を含めた食育が必要になってきています。

この「食」をもう一度見直すため、食育を国民運動として推進し、人が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことができる社会の実現を目指し、平成17年7月「食育基本法」が施行されました。その食育基本法に基づき、国においては、平成18年3月「食育推進基本計画」が、また、愛知県では平成18年11月「あいち食育いきいきプラン～愛知県食育推進計画～」が策定され、県下各市町村においても計画策定が進められています。

本市においても、食育の重要性に鑑み、「～『い・わ・く・ら』で始める 食が育む豊かな心！～」を基本とした「岩倉市食育推進計画」を作成しました。

* 食育基本法の前文抜粋

子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくためには、何よりも「食」が重要である。今、改めて、食育を、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎になるべきものと位置付けるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる食育を推進することが求められている。

2 計画の背景

(1)食環境の変化

現在の食生活は、豊かで便利になりました。また、より利便性、簡便性が求められ、時間と調理技術を要する料理より、外食や調理された食品を持ち帰って食べる中^{なかしょく}食や即席食品を利用することが多くなってきています。

その結果、生活時間が有効に活用されるようになった一方で、時間や手間のかかる手作りの家庭料理や伝統的な日本料理が、家庭の食卓に上がる機会が減少してきています。

また、国内では偽装表示や高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）問題、国外からは食料自給率が低く大量の食料を輸入しなければならない状況のなかでの残留農薬食品や牛海綿状脳症（BSE）の問題など、さらにはバイオ燃料化によるとうもろこしなどの飼料作物の高騰、世界的な気象変動による作物の生育不良等々、食糧に関する大きな問題が発生しました。そのため、安全安心な生産者の顔が見える「地産地消」がますます重要となっています。

(2)食生活の変化

食の乱れと健康への不安

24時間営業や深夜まで営業する店が増えることにより食べることが自由となり、それが、食の関心や食を大切に作る心の希薄化を生みだしました。また、子どもの朝食の欠食や孤食・個食などが多くみられること、中・高齢者が肥満傾向にあることや若い世代の偏った食事、過度なダイエットなど、あらゆる世代で生活習慣病をはじめ、健康状態に関する課題が増加してきています。

特に生活習慣病の発生要因となるメタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)が疑われる人とその予備群を併せた人々が年々増加しており、昨今では健康ブームのなかで、一部では正しい食生活に心がけるわけではなく、手軽な健康補助食品として多種多様なサプリメントなどが利用されてきています。

日本型食生活と伝統食文化の衰退

地域の多様性に富んだ伝統行事、祭り、風習とともに長年培われてきた伝統料理や郷土料理などの食文化、味覚や季節感に富んだ栄養バランスのとれた健康食として、世界に注目されている米食を中心とした日本型食生活が、衰退傾向にあります。

情報化社会への適切な対応

近年の急速な情報化社会の発展と健康に対する関心の高まりなどから、食品

や健康に関する情報が増加し、また多様化して適切な判断をすることがむずかしくなる一方で、誤った知識による食事や食品などにより、健康を損ねている例もみられます。

3 計画の位置づけ

本計画は、平成 17 年 7 月に施行された食育基本法第 18 条「市町村食育推進計画」の規定に基づく計画として位置付け、平成 18 年 3 月策定の「食育推進基本計画」、平成 18 年 11 月策定の「あいち食育いきいきプラン」を基本に策定しました。

平成 13 年 3 月策定の「第 3 次岩倉市総合計画」、平成 16 年 3 月策定の「健康いわくら 21」、平成 22 年 1 月策定の「岩倉市次世代育成支援後期行動計画」などとも連携しています。

* 食育基本法

(市町村食育推進計画)

第 18 条 市町村は、食育推進基本計画（都道府県食育推進計画が作成されているときは、食育推進基本計画及び都道府県食育推進計画）を基本として、当該市町村の区域内における食育の推進に関する施策についての計画（以下「市町村食育推進計画」という。）を作成するよう努めなければならない。

2 市町村（市町村食育推進会議が置かれている市町村にあっては、市町村食育推進会議）は、市町村食育推進計画を作成し、又は変更したときは、速やかに、その要旨を公表しなければならない。

国の施策

食育基本法（平成 17 年 7 月）

現在の「食」をめぐる様々な問題に対する抜本的な対策として、「国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことができるようにするため、食育を総合的、計画的に推進すること」を目的として、「食育基本法」が制定されました。

食育推進基本計画（平成 18 年 3 月）

平成 18 年度から 22 年度の 5 か年計画であり、食育の 7 項目の基本方針と、朝食欠食、学校給食の地場産物を使用する割合、メタボリックシンドロームを認知している人の割合、推進計画を作成・実施している自治体の割合など、9 つの数値目標を定めています。

愛知県の施策、取り組み

あいち食育いきいきプラン（平成 18 年 11 月）

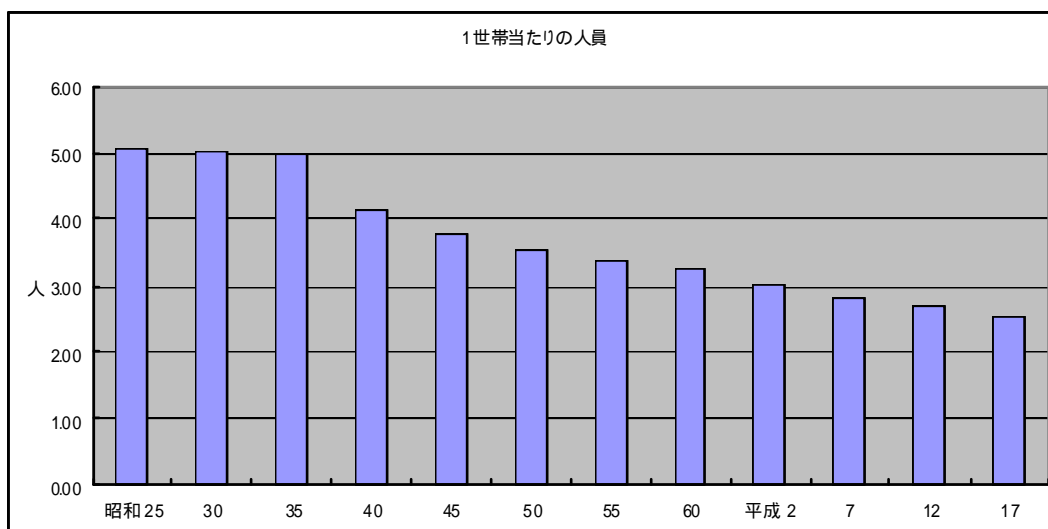
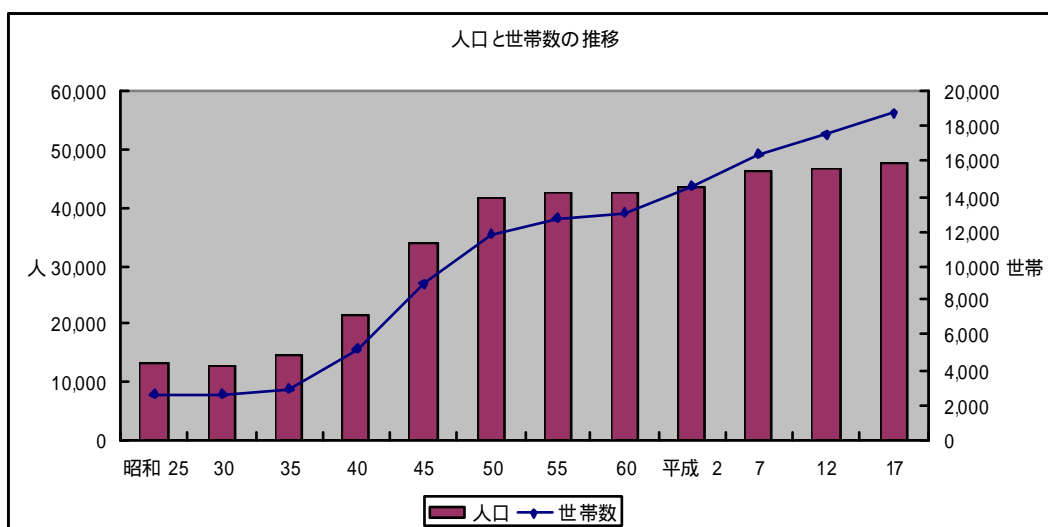
平成 19 年度から 22 年度の 4 か年計画で、体、心、環境の 3 つの視点から愛知県における課題を見出し、県民にはこの 3 つの分野別の取り組みと世代別の取り組みを、県や関係団体等には啓発を含めた 4 つの分野別の取り組みを定め、食育の目標なども定めています。

第2章 岩倉市の食をめぐる現状

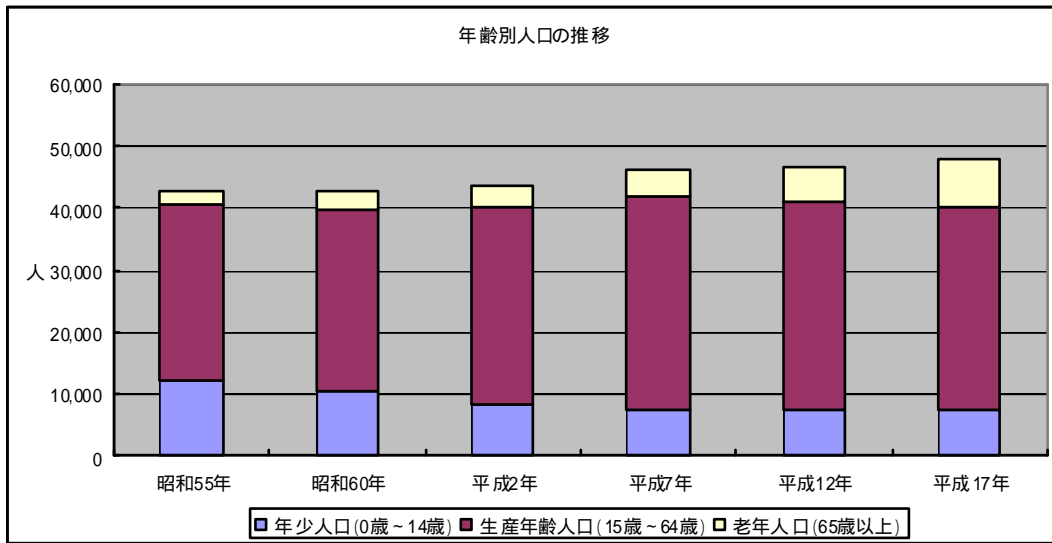
1 人口・世帯構造の変化

岩倉市の人口・世帯は、平成17年の国勢調査では47,926人、18,774世帯と増加の傾向にあるが、世帯数の増加が人口の増加の割合に比べて大きく、1世帯当たりの人員が減少していることから、核家族化や単身世帯が増加しているものと考えられます。

また、年少人口の減少、老年人口の増加といった傾向が見られ、本市においても少子高齢化の進展は例外ではありません。



資料:国勢調査



資料:国勢調査

2 食生活の現状

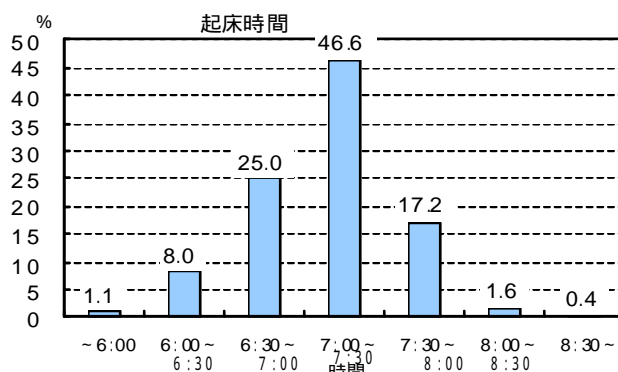
乳幼児の食生活

以下のアンケートからは、朝食をお菓子やアイスクリームだけといった回答もあり、保護者の食に対する意識に問題がある家庭もある。

平成20年11月に児童課(現 児童家庭課)で実施した食生活関連のアンケート結果より全保育園児の保護者を対象に、在籍人数598人のうち回収できたのは548人で、回収率は91.6%でした。

〔起床時間〕

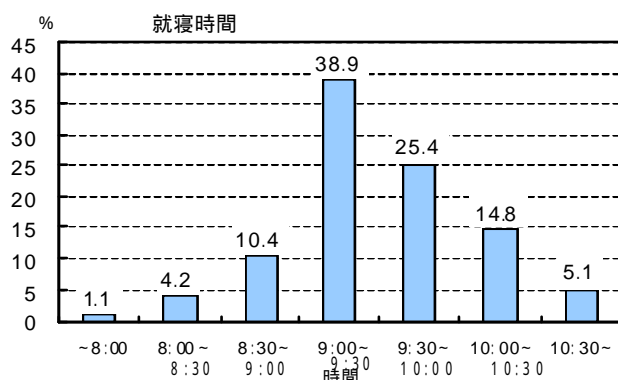
約半数が7時～7時30分、1/4が6時30分～7時の間に起きている。7時30分までに起きている子は80.7%で、18年2月に調査したとき(69.7%)より11ポイント上がった。一方8時以降におきる子は2%と前回(6.1%)より4.1ポイント下がった。年齢や園による差は見られなかった。2年前のアンケートと比較して、



やや早起きになったようである。

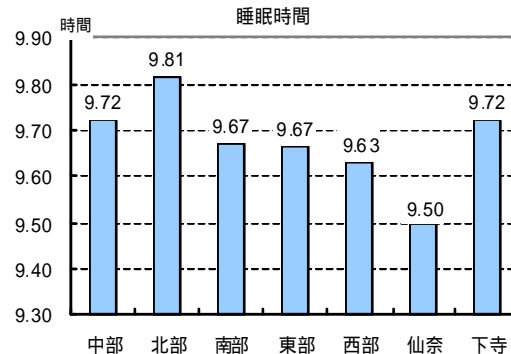
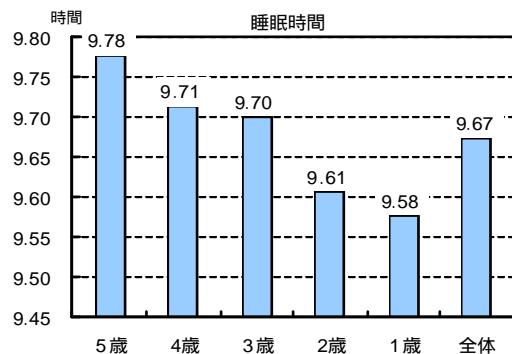
〔就寝時間〕

大半が9時台に就寝している。年齢別では3～5歳児は9時～9時30分に、1～2歳児では少し遅く、9時30分～10時に寝ている子が多かった。また、10時以降に寝ている子は19.9%で前回(24.1%)より少なくなった。10時以降に寝る子は、5歳児では8人に1人であるが、1歳児は4人に1人と、小さい子ほど遅くなっているようである。小さい子はお昼寝があるためと思われる。



〔睡眠時間〕

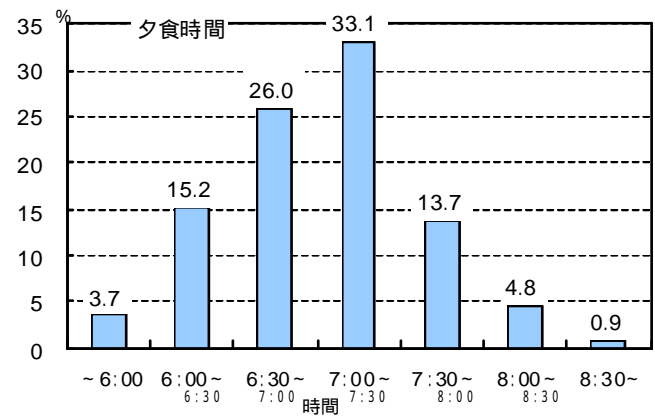
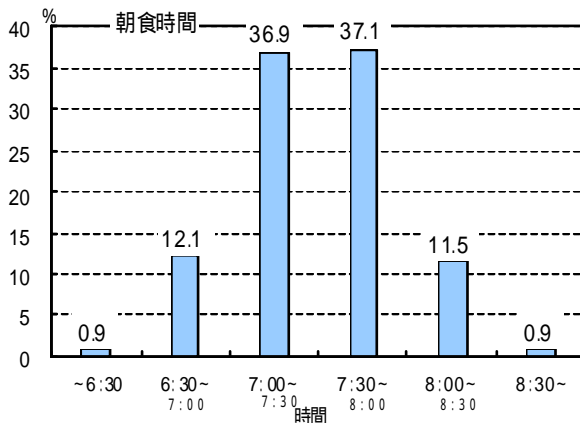
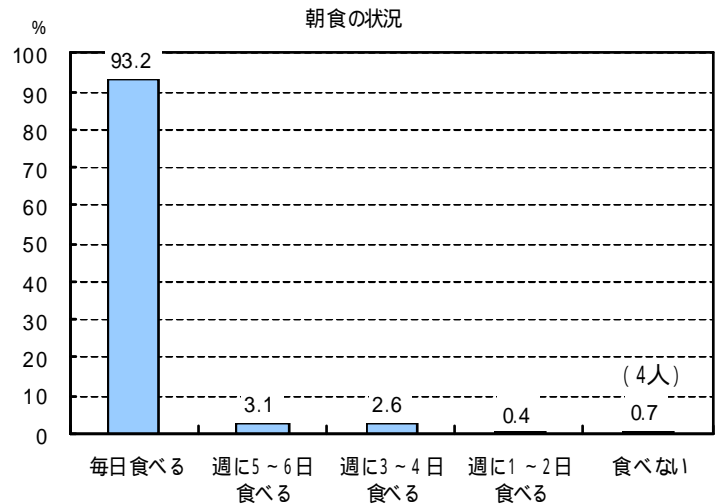
おおよその睡眠時間は9時間40分であった。若干小さい子ほど睡眠時間が短いようであったが、園別では仙奈の園児の睡眠時間が短かった。



〔朝食〕

毎日朝食を食べる子は93.2%で前回の90.4%より2.8ポイント増加した。週に5～6日食べる子も含めると96.3%である。しかし週に3日以下の子が3%いる。(前回3.6%) 食べない子と記入してあった子は4人であった。毎日食べないと答えた

33人のうち、半数以上が食べられない理由に「食べたがらない」をあげ、ついで「時間がない」「食欲がない」となっていた。これらの理由として睡眠時間が関係しているのではないかと考えられる。

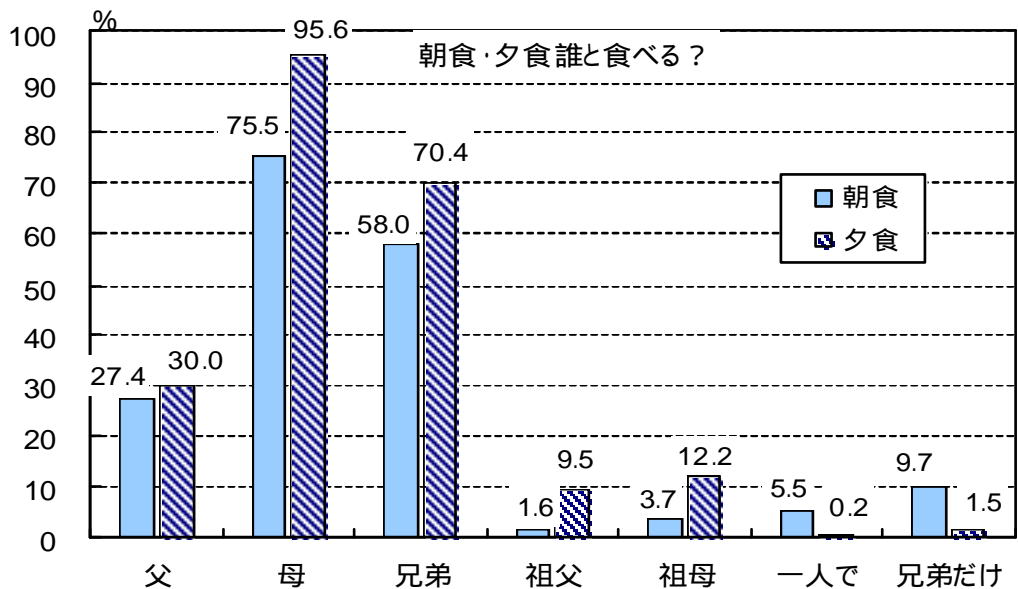


朝食は7時～8時までにはほとんどの子が食べていたが、8時以降に12.4%もいた。夕食は6時30分～8時までに72.8%の子が済んでいたが、8時以降に夕食を摂る子が5.7%いた。この子達が10時以降の就寝になると思われる。朝食時間、夕食時間ともに年齢別、園別で差はなかった。

〔誰と食べるのか〕

朝食を誰と食べるのかたずねたところ、一人で食べる子が5.5%(30人)、兄弟だけで食べる子が9.7%(53人)いる。この子達の多くは夕食には家族と食べていたが、夕食も一人で食べている子は0.9%(1人)、兄弟だけで食べている子は1.5%(8人)いた。

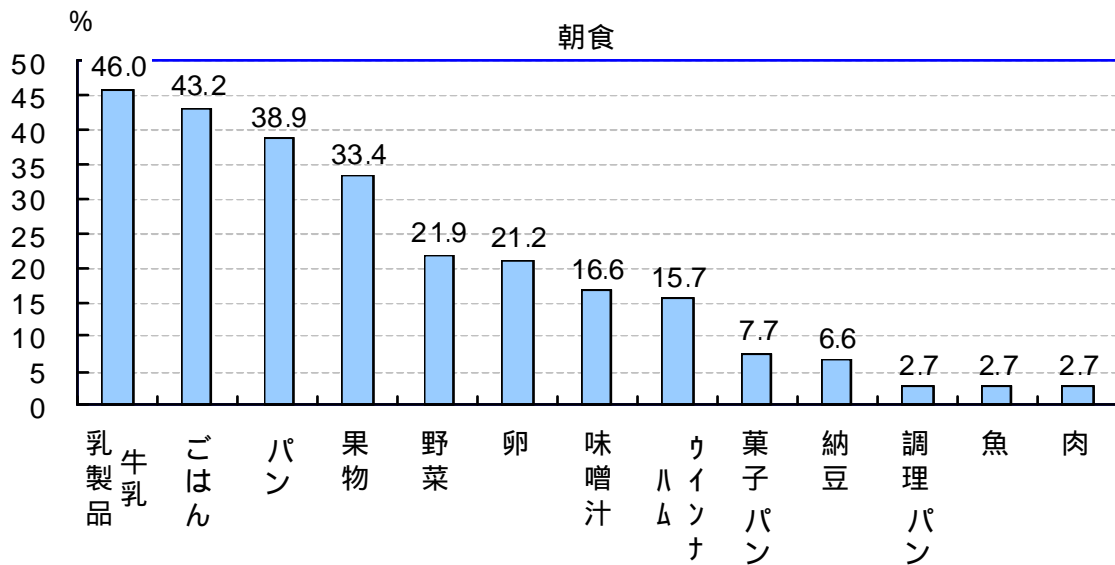
また、家族そろって食べている家庭は朝食では20.1%、夕食では32.9%となり、朝夕どちらも家族がそろって回答した家庭は8.4%であった。



〔朝食内容〕

内容はパン(菓子パン・調理パンを含む)が49.3%、ごはんが43.2%と半々であった。パンだけ、ごはんだけという単品の子は5.8%であったが、前回(8.7%)より減少していた。ごはんと味噌汁の組み合わせを食べているのは15.3%、パンと牛乳・乳製品の組み合わせは7.8%であった。

朝食の内容の中に、ミルクだけ、チョコレートだけという回答があり、今後とも保護者への啓発が必要と思われる。



小中学生の食生活

以下のアンケートからは、朝食をひとりで食べているものは、欠食率も高く、嫌いな物を「食べない」と答えた割合が特に中学生で多いといった問題点が見られる。

平成20年11月に給食センターで実施した学校給食アンケート結果より

(「家庭の食事について」を抜粋)

調査対象

小学校(2年生・4年生・6年生)各校、各学年1クラス	452人	
中学校(1年生・2年生)	岩倉中学校各学年3クラス 南部中学校各学年2クラス	337人

児童・生徒数3,892人の内、789人(20.3%)抽出調査。

〔朝食の状況〕

「毎日食べる」と答えたものは、平成17年度調査と比較すると小学生が5ポイント増え88%、中学生では8ポイント増え87%であった。「食べない」と答えたものは小学生で2ポイント減り3%、中学生も2ポイント減り4%であった。小・中学生ともに「朝食を食べる」良い習慣が身についた子が増えている。食べない理由は、「時間がない」が多く、朝の時間に余裕のなさがかえりえる。

「朝食をひとりで食べる」と答えた小学生は15%、中学生は37%であった。学年が上がるにつれて、ひとりで食べる割合が増えている。中学生は、部活の朝練習があるため、ひとりで食べる割合が多くなっている。朝食を「毎日食べる」と答えたものでは、「家族そろって食べる」と答える割合が一番多く、朝食の回数が減るにつれて、「ひとりで食べる」と答える割合が多くなっている。家族そろって食べている人たちのほうが、食べることが習慣化していることがわかった。朝食は、一日の始まりの大切な食事なので、家族そろってゆとりある食事がとれるのが望ましい。試食会や、給食だよりなどを通し、今後も引き続き、保護者に朝食の大切さを伝えていきたい。

〔夕食の状況〕

「夕食はだれと食べますか」という問いに対し「ひとりで食べる」と答えた小学生は、3%、中学生は、6%いる。学年が進むにつれて孤食の人数が増えている。これは、塾通いなどのために家族と夕食をともにできない状況があると考えられる。夕食は家族だんらんの一時であり、孤食は、子どもたちの心に影響を与える重要な問題である。

朝食も、夕食も「ひとりで食べる」と答えたものは、18人(2.3%)あり、平成17年度の調査より1.2ポイント減っている。家庭環境の問題は、すぐに解決できる問題ではないが、食に関して正しい知識を身につけることが

大切になってくる。

〔偏食の状況〕

嫌いな食べ物がでた時、「がまんして食べる」と答えた小学生は、給食で44%、家では39%であった。中学生では、給食で27%、家では37%であった。中学生では、給食の方が家よりがまんして食べると答えた割合が少なかった。また嫌いな物は「食べない」と答えた小学生は、給食で9%、家で8%、中学生は給食で28%、家で17%であった。学年別にみると、学年が上がるにつれ「がまんして食べる」割合が減っている。偏食については、個人差があり、個別に指導していくことが必要である。

〔おやつ、夜食の状況〕

「おやつを毎日食べる」割合は小学生では学年が進むにつれ減少している。小学2年生では49%で約2人に1人が毎日食べている。中学1・2年生の割合は同じ(32%)で、約3人に1人が毎日食べている。「食べない」と答えたものは、全体で13%となる。おやつを食べることは生活習慣の一つとしてとらえることができる。

「夜食は食べますか」という問いに対し、「食べない」と答えた小・中学生は49%で、どの学年も「食べない」と答えた割合が一番多い。学年による差はあまりみられない。

〔食事のマナー状況〕

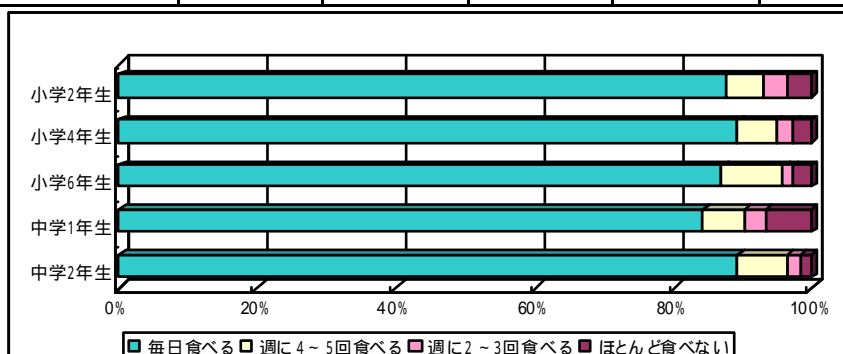
はしの持ち方について、家族の人から「注意されない」と答えたものは、平成17年度の調査と比較すると2ポイント増え全体で54%となる。「注意される」は5ポイント減り全体で25%となる。学年や性別による差はみられない。

食べるときの姿勢については、家族の人から「注意される」と答えたものは、2ポイント増え全体で57%(小学生59%、中学生53%)。逆に「注意されない」と答えた割合は小・中学生同じ28%で、前回の調査と差はみられない。家庭においては、はしの持ち方についてはあまり注意されないが、食べるときの姿勢については注意されている傾向がある。また、小学生の方が中学生より家族の人から注意されていた。給食時間においても、はしを正しく持てないまま食べている子や、後ろを向いたり、椅子に足を組んだりして食べている姿を見る。食べ物の消化にも影響してくるので、正しい食べ方のマナーを身につけるよう、家庭、学校双方で取り組む必要がある。

問 2 9 あなたは毎日朝食を食べていますか

	毎日食べる	週に4～5回食べる	週に2～3回食べる	ほとんど食べない	合計
小学2年生	127	8	5	5	145
小学4年生	142	9	4	4	159
小学6年生	127	13	2	4	146
中学1年生	139	10	5	11	165
中学2年生	150	12	3	3	168
合計	685	52	19	27	783

(単位 人)

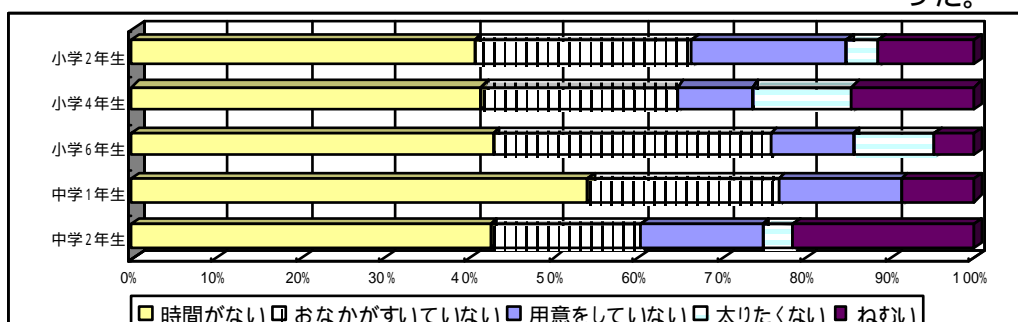


朝食を「毎日食べる」は、前回の調査より小学生で5ポイント増え88%、中学生で8ポイント増え87%である。「食べない」と答えたものは小・中学生ともに、2ポイント減り小学生3%、中学生4%で、前回より朝食を毎日食べる傾向にある。

問 3 0 問 2 9 で「毎日食べる」と答えなかった人にたずねます。食べない日があるのはどうしてですか (単位 人)

	時間がない	おなかがすいていない	用意をしていない	太りたくない	ねむい	合計
小学2年生	11	7	5	1	3	27
小学4年生	14	8	3	4	5	34
小学6年生	9	7	2	2	1	21
中学1年生	19	8	5	0	3	35
中学2年生	12	5	4	1	6	28
合計	65	35	19	8	18	145

食べない理由は、「時間がない」が多く、次に「おなかがすいていない」が多かった。「時間がない」は中学1年が一番多かった。

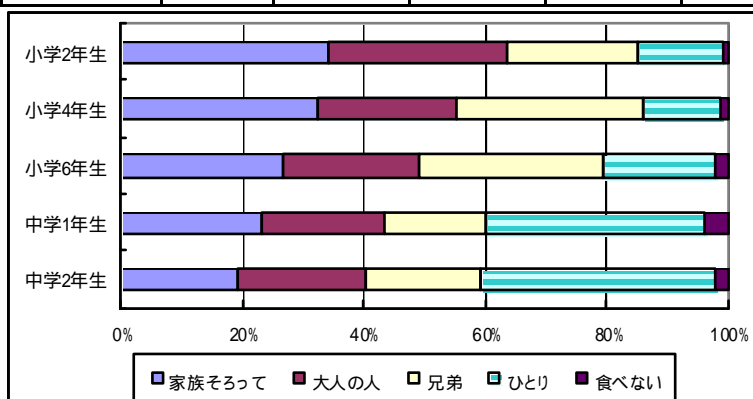


問3 1 家の食事で嫌いな食べ物がでたとき、どうしますか
問3 2の後で考察する。

問3 2 朝食は誰と食べますか

	家族 そろって	だれか大人 の人と	兄弟と	ひとりで	食べない	合計
小学2年生	49	42	31	20	1	143
小学4年生	51	36	49	20	2	158
小学6年生	39	33	44	27	3	146
中学1年生	39	34	29	60	7	169
中学2年生	32	35	31	64	4	166
合計	210	180	184	191	17	782

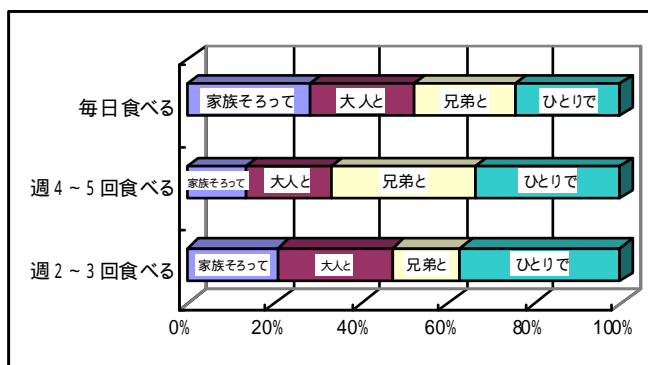
(単位 人)



「家族そろって」と答えた割合は、小学2年生が34%で一番多く、学年が上がると減る傾向である。

「ひとりで」と答えた小学生は15%いる。中学生になると37%が「ひとりで」食べている。家族がそろって食べている家庭が減っている傾向である。

朝食の回数と、喫食者の状況



朝食を「毎日食べる」と答えたものは、「家族そろって食べる」と答える割合が一番多い。朝食の回数が減るにつれて、「ひとりで食べる」と答える割合が増えている。

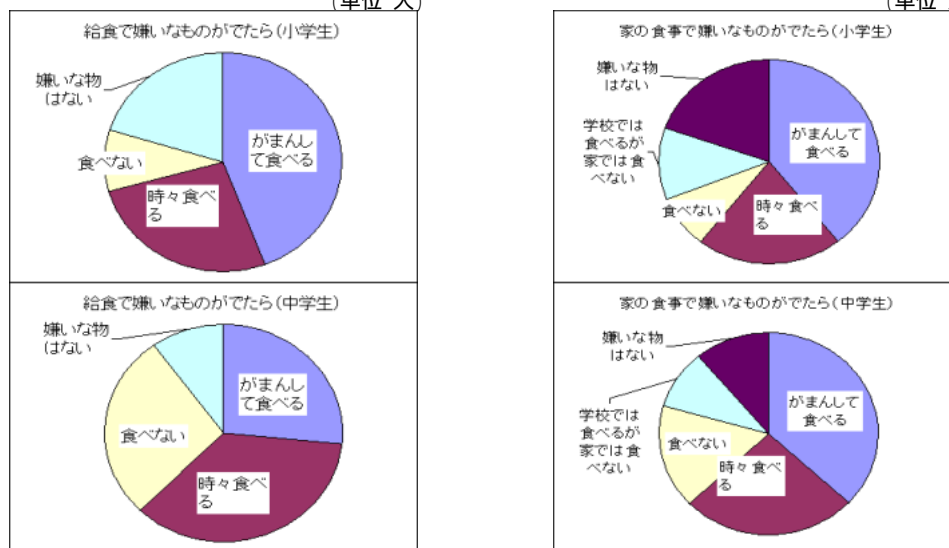
問16・問31 嫌いな食べ物がでた時、どうしますか

問16 給食で嫌いな食べ物がでた時どうしますか 問31 家の食事で嫌いな食べ物がでた時どうしますか

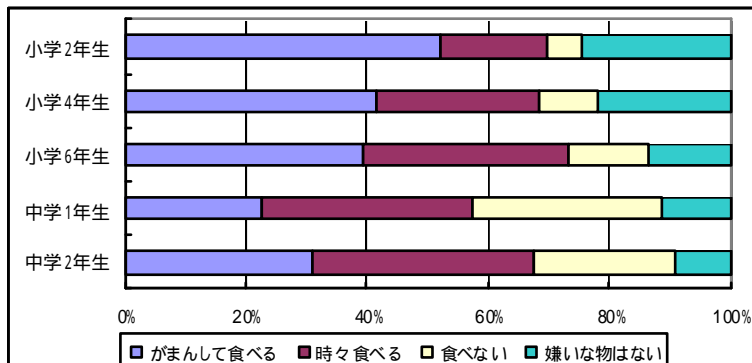
	がまんして食べる	時々食べる	食べない	嫌いな物はない	合計	がまんして食べる	時々食べる	食べない	学校では食べる、家では食べない	嫌いな物はない	合計
小学生	199	119	42	91	451	176	96	37	51	89	449
中学生	90	120	93	34	337	124	87	56	32	37	336
合計	289	239	135	125	788	300	183	93	83	126	785

(単位 人)

(単位 人)



給食で嫌いな物がでた時どうしますか (学年別)



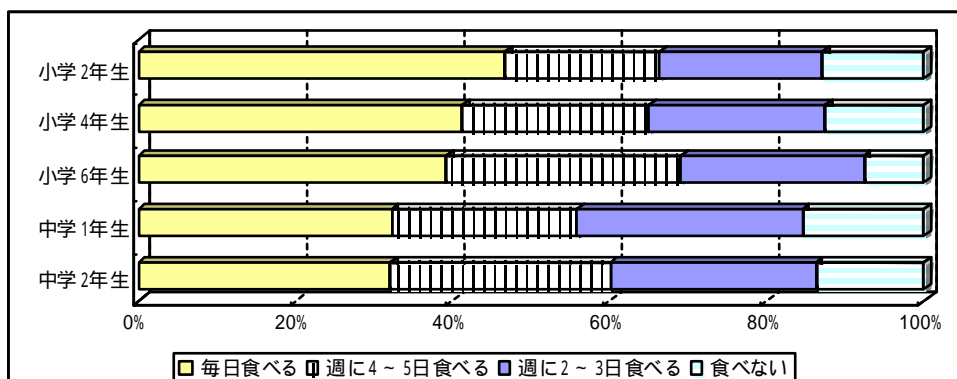
小学生では、「がまんして食べる」は、給食で44%、家では、39%である。また、「時々食べる」を合わせると、給食で、71%、家で61%ある。給食の方ががまんして食べる傾向にある。

中学生では、「がまんして食べる」は、給食で27%、家では、37%であり、小学生とは異なり、給食で嫌いな物がでたとき食べない傾向にある。嫌いな物は「食べない」と答えた小学生は給食で9%、家で8%あり、中学生は給食で28%、家で17%となっている。学年別にみると、学年が上がるにつれ「がまんして食べる」割合が減っている。

問34 おやつは食べますか

	毎日 食べる	週に4～ 5回食べる	週に2～ 3日食べる	食べない	合計
小学2年生	68	29	30	19	146
小学4年生	66	38	36	20	160
小学6年生	57	43	34	11	145
中学1年生	54	40	48	26	168
中学2年生	54	47	44	23	168
合計	299	197	192	99	787

(単位 人)

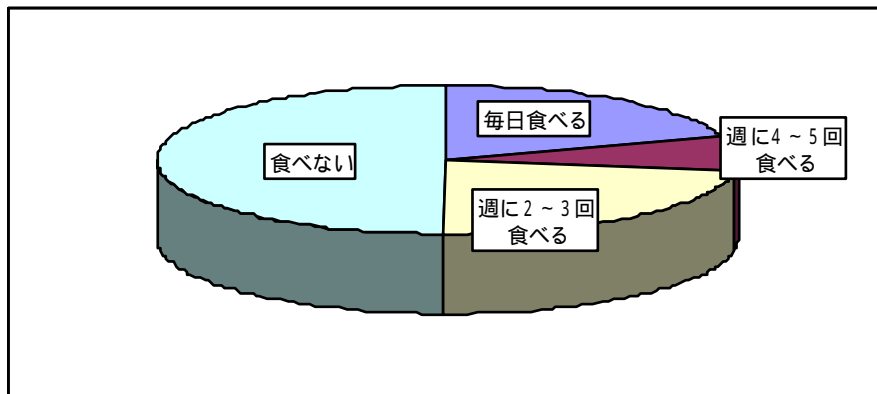


「毎日食べる」と答えたものは、小学2年生で49%と最も多く、学年が上がるにつれ割合が減っている。

問35 夜食は食べますか

	毎日 食べる	週に4～ 5回食べる	週に2～ 3日食べる	食べない	合計
小中学生	157	59	180	390	786

(単位 人)

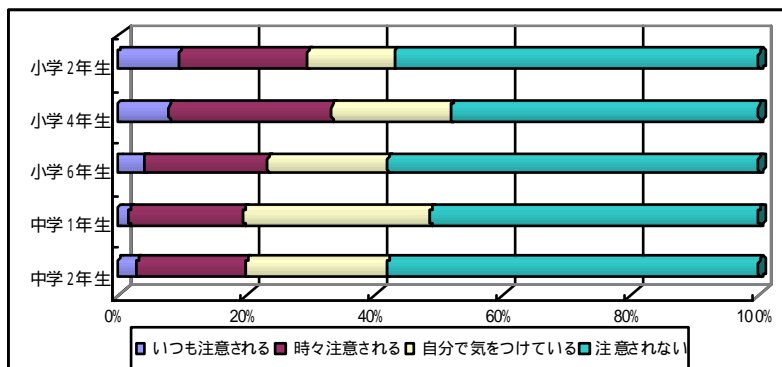


夜食については、「食べない」と答えた小・中学生は50%で、どの学年も「食べない」と答えた割合が一番多い。学年による差はみられない。

問36 家族の人からはしの持ち方について注意されることはありますか

	いつも注意される	時々注意される	自分で気をつけている	注意されない	合計
小学2年生	14	29	20	83	146
小学4年生	13	40	29	76	158
小学6年生	6	28	27	84	145
中学1年生	3	30	49	86	168
中学2年生	5	29	37	97	168
合計	41	156	162	426	785

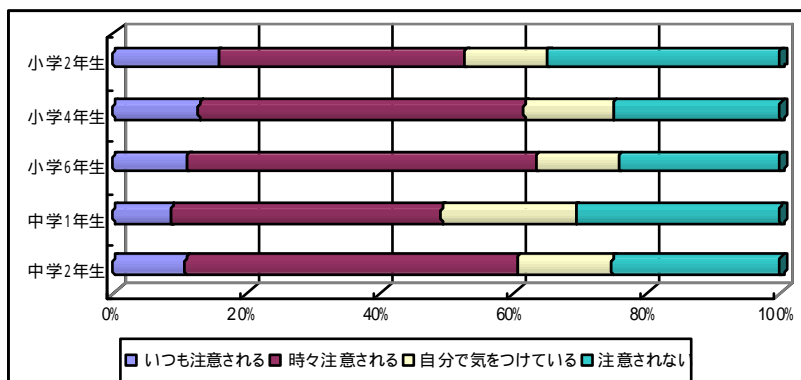
(単位 人)



問37 家族の人から食べる時の姿勢について注意されることはありますか

	いつも注意される	時々注意される	自分で気をつけている	注意されない	合計
小学2年生	23	54	18	51	146
小学4年生	20	76	21	39	156
小学6年生	16	76	18	35	145
中学1年生	14	66	33	50	163
中学2年生	18	83	24	42	167
合計	91	355	114	217	777

(単位 人)



はしの持ち方については、学年が上がるにつれて注意されなくなる傾向がある。姿勢については、学年による差はあまりなく、中学生になっても注意されている。

大人の食生活

以下のアンケートからは、乳幼児や小中学生よりも毎日朝食を食べている人の割合が少ないといった問題点が見られる。

平成19年2月に健康課で実施した生活習慣関連アンケート結果より（「食事について」を抜粋）

保健推進員を通して、20代～80代を対象に320人配布し、回収できたのは306人で、回収率は95.6%でした。

2. 食事についておたずねします。

(1) 食事全体について

問9 あなたは、朝食を食べますか。(印は1つ) N=306 無回答7(2.3)

1	ほとんど毎日食べる	259(84.6)	3	週2～3日食べる	9(2.9)
2	週4～5日食べる	13(4.2)	4	ほとんど食べない	18(5.9)

問10 あなたは、間食をしますか。(印は1つ) N=306 無回答7(2.3)

1	ほぼ毎日間食する	124(40.5)	3	週に2～3回間食する	82(26.8)
2	週に4～5回間食する	23(7.5)	4	ほとんど間食しない	70(22.9)

問11 1日最低1食きちんとした食事を、家族など2人以上で30分以上かけてとっていますか。(印は1つ) N=306 無回答7(2.3)

1	とっている	213(69.6)	2	とっていない	86(28.1)
---	-------	-----------	---	--------	----------

問12 あなたは、外食しますか。(持ち帰り弁当等を含みます。)(印は1つ) N=306 無回答10(3.3)

1	毎日外食する	22(7.2)	3	週に2～3回外食する	5	外食しない
2	週に4～5回外食する	19(6.2)		42(13.7)		110(35.9)
			4	週に1回外食する		103(33.7)

問13 あなたは、外食や食品を購入するとき、カロリーなどの栄養成分表示を参考にしますか。(印は1つ) N=306 無回答8(2.6)

1	参考にしている	39(12.7)	3	参考にしていない	127(41.5)
2	参考にするときもある	115(37.6)	4	わからない	17(5.6)

問 14 あなたは、自分の適正体重を維持することのできる食事量・内容を知っていますか。(印は1つ) N=306 無回答 8(2.6)

1 知っている	→	実際に自分の適正体重を維持することのできる食事量・内容に気をつけていますか。								
146(47.7)		<table border="1"> <tr> <td>1 はい</td> <td>77(25.2)</td> <td>2 いいえ</td> <td>67(21.9)</td> </tr> <tr> <td colspan="4">無回答 1(0.3)</td> </tr> </table>	1 はい	77(25.2)	2 いいえ	67(21.9)	無回答 1(0.3)			
1 はい	77(25.2)	2 いいえ	67(21.9)							
無回答 1(0.3)										
2 知らない		152(49.7)								

問 15 あなたは、現在、自分の食べている食事をどのように思いますか。(印は1つ) N=306 無回答7(2.3)

1 大変よいと思う	19(6.2)	3 少し問題があると思う	119(38.9)
2 よいと思う	126(41.2)	4 わからない	35(11.4)

問 16 あなたは、自分の食生活について今後どのようにしたいと思っていますか。(印は1つ) N=306 無回答7(2.3)

1 今より良くしたい	147(48.0)	3 とくに考えていない	67(21.9)
2 今のままでよい	85(27.8)		

(2) 塩分についておたずねします。

問 17 あなたは、1日に食塩摂取量を 10g 未満が望ましいということを知っていますか。(印は1つ) N=306 無回答3(1.0)

1 はい	193(63.1)	2 いいえ	110(35.9)
------	-----------	-------	-----------

問 18 あなたの料理の味付けは、薄いほうですか、濃いほうですか。(印は1つ) N=306 無回答3(1.0)

1 薄いほう	95(31.0)	2 どちらともいえない	131(42.8)	3 濃いほう	77(25.2)
--------	----------	-------------	-----------	--------	----------

問 19 あなたは、みそ汁、すまし汁、スープなどは1日に何杯飲みますか。(印は1つ) N=306 無回答4(1.3)

1 ほとんど飲まない	34(11.1)	3 2杯程度	60(19.6)
2 1杯程度	203(66.3)	4 3杯以上()杯	5(1.7)

問 20 あなたは、漬け物類をよく食べますか。「普通に食べる」とは、1日にきゅうり 1/2 本程度と考えて下さい。(印は 1 つ)

N=306 無回答 4(1.3)

1 ほとんど食べない	2 普通に食べる	3 よく食べる
124(40.5)	153(50.0)	25(8.2)

問 21 あなたは、味付けをしたおかずにしょうゆ、ソース、または塩などをかけますか。(印は 1 つ)

N=306 無回答 4(1.3)

1 ほとんどかけない	2 時々かける	3 ほとんど毎日かける
184(60.1)	102(33.3)	16(5.2)

問 22 あなたは、しょうゆの代わりにポン酢、レモン、こしょう、唐辛子などの香辛料をよく使いますか。(印は 1 つ)

N=306 無回答 5(1.6)

1 ほとんど使わない	2 時々使う	3 よく使う
90(29.4)	162(52.9)	49(16.0)

問 23 あなたは、めん類の汁をほとんど全部飲みますか。(印は 1 つ)

N=306 無回答 4(1.3)

1 毎回飲む	2 時々残す	3 毎回残す
38(12.4)	96(31.4)	168(54.9)

問 24 あなたは、塩辛いもの(塩さけ、塩辛、うに、つくだ煮など)をよく食べますか。(印は 1 つ)

N=306 無回答 4(1.3)

1 ほとんど食べない	2 時々食べる	3 よく食べる
83(27.1)	197(64.4)	22(7.2)

(3) 脂質についておたずねします。

問 25 あなたは、脂の少ない肉と脂の多い肉(挽き肉、バラ肉等)とどちらを多く食べますか。(印は 1 つ)

N=306 無回答 4(1.3)

1 脂の少ない肉	2 どちらともいえない	3 脂の多い肉
138(45.1)	129(42.2)	35(11.4)

問 26 あなたは、揚げ物を週にどのくらい食べていますか。(印は 1 つ)
N=306 無回答 4(1.3)

1	ほとんど毎日食べる	7(2.3)	3	週 2 ~ 3 日食べる	187(61.1)
2	週 4 ~ 5 日食べる	26(8.5)	4	ほとんど食べない	82(26.8)

問 27 あなたは、マヨネーズ、ドレッシング、炒め物、揚げ物など油料理は 1 日にどれくらい食べますか。(印は 1 つ)

N =306 無回答 11(3.6)

1	ほとんど食べない	19(6.2)	3	1 日 1 回食べる	129(42.2)
2	時々食べる	137(44.8)	4	1 日 2 回以上 () 回	10(3.3)

問 28 あなたは、洋菓子、菓子パン、ファーストフードの食品を週にどのくらい食べますか。(印は 1 つ)
N=306 無回答 11(3.6)

1	ほとんど毎日食べる	32(10.5)	3	週 2 ~ 3 日食べる	117(38.2)
2	週 4 ~ 5 日食べる	24(7.8)	4	ほとんど食べない	122(39.9)

(4) カルシウムについておたずねします。

問 29 あなたは、牛乳を飲んでいますか。(牛乳 1 本 = 200ml)(印は 1 つ)
N=306 無回答 10(3.3)

1	全然飲まない	71(23.2)	3	毎日 1 本	67(21.9)
2	時々飲む	153(50.0)	4	毎日 2 本以上 () 本	5(1.6)

問 30 乳製品で毎日のように食べているものがありますか。
(1 日の量で答えてください)(複数回答可)

N=306 無回答 24(7.8)

* 数字は各々の項目を回答した人数及び、() 内は %、[] は 1 人当たりの平均摂取量

1	ヨーグルト	() g	4	チーズ (一切れ 5mm の厚さとして)	() 枚
		92(30) [平均 83.3 g]			
2	スキムミルク	大さじ () 杯		35(11.4) [平均 11.2g]	
		4(1.3) [平均 52.5g]	5	食べていない	
3	その他	()		160(52.3)	
		1(0.3) [摂取量は無回答]			

問 31 あなたは、小魚や海草を週にどのくらい食べますか。(印は 1 つ)
N=306 無回答 11(3.6)

1	ほとんど毎日食べる	44(14.4)	3	週 2 ~ 3 日食べる	169(55.2)
2	週 4 ~ 5 日食べる	37(12.1)	4	ほとんど食べない	45(14.7)

問 32 あなたは、大豆製品(豆腐、油揚げ、納豆、煮豆等)を週にどのくらい食べますか。(印は 1 つ)
N=306 無回答 10(3.3)

1	ほとんど毎日食べる	109(35.6)	3	週 2 ~ 3 日食べる	125(40.8)
2	週 4 ~ 5 日食べる	46(15.0)	4	ほとんど食べない	16(5.2)

(5) 野菜・果物についておたずねします。

問 33 あなたは、緑黄色野菜と淡色野菜を合わせて 1 日 350 g 以上(1 日両手 3 杯分) たっぷり食べることが望ましいということを知っていますか。(印は 1 つ)

N=306 無回答 10(3.3)

1	はい	191(62.4)	2	いいえ	105(34.3)
---	----	-----------	---	-----	-----------

「 緑黄色野菜とは、色の濃い野菜... にんじん、ピーマン、ほうれん草、ブロッコリー等
淡色野菜とは、その他の色の淡い野菜... 白菜、なす、大根、キャベツ、きのこ、海藻等 」

問 34 あなたは、1 食に野菜をどのくらい食べていますか。(印はそれぞれ 1 つ) 「普通に食べる」というのは、刻んだ野菜を片手 1 杯くらいと考えて下さい。

朝食 N=306											
無回答 5(1.6)											
1	食べない	126(41.2)	2	少し食べる	101(33.0)	3	普通に食べる	66(21.6)	4	たっぷり食べる	8(2.6)
.....											
昼食 N=306											
無回答 5(1.6)											
1	食べない	41(13.4)	2	少し食べる	175(57.2)	3	普通に食べる	81(26.5)	4	たっぷり食べる	4(1.3)
.....											
夕食 N=306											
無回答 4(1.3)											
1	食べない	4(1.3)	2	少し食べる	69(22.5)	3	普通に食べる	167(54.6)	4	たっぷり食べる	62(20.3)

あなたは、緑黄色野菜（色の濃い野菜）を週にどのくらい食べていますか。（印は1つ）

N=306 無回答 3(1.0)

1	ほとんど毎日食べる	112(36.6)	3	週2～3日食べる	118(38.6)
2	週4～5日食べる	68(22.2)	4	ほとんど食べない	5(1.6)

問 36 あなたは、果物を1日にどのくらい食べていますか。（印は1つ）

「1個」は中位のリンゴの大きさ程度と考えて下さい。

N=306 無回答 3(1.0)

1	食べない	73(23.9)	3	1個程度	69(22.5)
2	半個くらい	156(51.0)	4	1個以上 ()個	5(1.6)

3 市民の食育に対する関心事項について

平成20年8月に企画課（現 企画財政課）で実施した市民以降調査結果より（「食育に対する関心事項」を抜粋）

20歳以上の市民から、4,000人を層化無作為にて抽出し、回収数は2,502で回収率は62.6%、そのうち未記入などの無効票を除いた有効回収数は2,464で、有効回収率は61.6%でした

6-2 食育に対する関心事項（問36）

問36 食育を推進していくためには、様々な活動がありますが、あなたは、市民運動として食育を実践するとしたらどのようなことに関心がありますか。【あてはまるものを3つまで選んで 印をつけてください。】

*食育：食育とは、国民一人一人が、生涯を通じた健全な食生活の実現、食文化の継承、健康の確保などが図れるよう、自らの食について考える習慣や食に関する様々な知識と食を選択する判断力を楽しく身に付けるための学習などの取組みを指します。

「食品の安全性に関する理解」の割合が最も多く、「食生活・食習慣の改善」が続いています。「食事に関するあいさつの励行や作法の習得」は、「自然や生産者などへの感謝・理解や農業体験」とほぼ同程度です。また、「郷土料理・伝統料理などの優れた食文化の継承」も少なくありません。

【全体】（図 6-2-1）

「食品の安全性に関する理解」に対する関心が48.1%と最も多くなっています。次いで、「食生活・食習慣の改善」が42.0%、「食事に関するあいさつの励行や作法の習得」が35.6%、「自然や生産者などへの感謝・理解や農業体験」が35.2%と続いています。「郷土料理・伝統料理などの優れた食文化の継承」に対する関心も25.4%となっており、決して少なくありません。

【年齢別】（図 6-2-1）

「食品の安全性に関する理解」に対する関心は、50歳代で53.1%と若干多くなっています。

「食事に関するあいさつの励行や作法の習得」に対する関心は、70歳以上の高齢者層において43.3%と他の世代よりも若干多くなっていますが、逆に、20歳代や40歳代においてそれぞれ、30.1%、30.2%と他の世代よりも若干少なくなっています。

「自然や生産者などへの感謝・理解や農業体験」に対する関心は、30歳代で41.2%と他の世代よりも若干多くなっていますが、70歳以上で26.7%と他の世代よりも若干少なくなっています。

「郷土料理・伝統料理などの優れた食文化の継承」に対する関心は、20歳代で他の世代よりも若干多くなっています。

【世帯の構成者別】(図 6-2-2)

「食生活・食習慣の改善」については、小学校入学前の子どもがいる市民(49.3%)や大学生(専門学校生)がいる市民(48.4%)における関心が若干多くなっています。

「自然や生産者などへの感謝・理解や農業体験」については、小学校入学前の子どもがいる市民(44.0%)や小学生がいる市民(45.1%)における関心が若干多くなっています。

「郷土料理・伝統料理などの優れた食文化の継承」については、同居人はいない(単身世帯である)市民(33.8%)における関心が若干多くなっています。

図 6-2-1 年齢別「食育に対する関心事項」

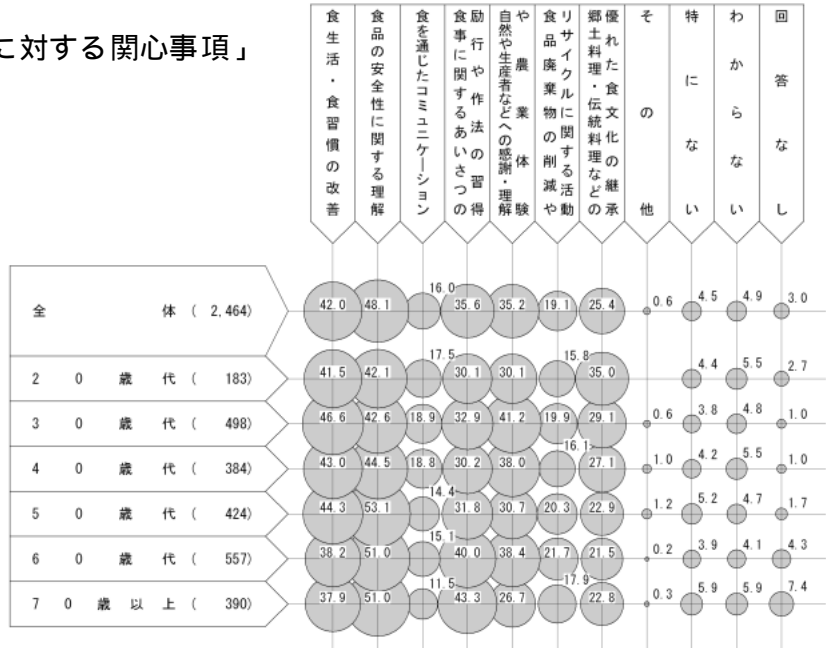
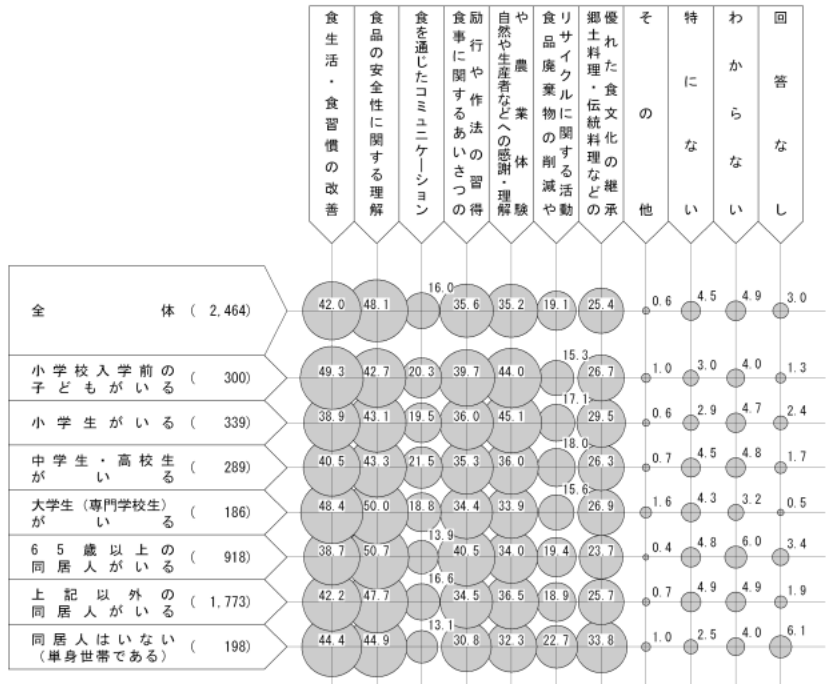


図 6-2-2 世帯の構成者別「食育に対する関心事項」



第3章 食育推進の基本的考え方

～『い・わ・く・ら』で始める 食が育む豊かな心！～

1 基本理念

いつまでも健康で、食に感謝し、食の安全・安心にも配慮して、食を^{しんし}真摯に学び、豊かな心を^{はぐく}育みます。

2 基本方針

い ... いつまでも おいしく食べて健康づくり (健康)
わ ... わすれない 食への感謝と心のふれあい (心)
く ... 暮らしにやさしい 食の安全・安心 (環境)
ら ... らくらく学ぶ 正しい食育 (啓発)

食が育む豊かな心

3 基本方針の考え方と行動目標及びその施策

い ... いつまでも おいしく食べて健康づくり (健康)

生活スタイルが大きく変化したことにより、朝食欠食などの不規則な食習慣や栄養の偏りが、肥満、生活習慣病の増加を招いています。また、いきすぎたダイエットによる健康障害も引き起こされるなど、食にまつわるさまざまな健康問題が生じています。

食事は命の源であり、生涯にわたる健康な体づくりのために「食を営む力」を育成することは大変重要なことです。心身ともに健康な生活をおくるためには、食や健康に関する正しい知識を持ち、自らが正しい情報を判断して食を得ることが不可欠です。

健康の基本である食を通じて、生涯にわたって健康でいきいきと過ごすことを目指します。

<行動目標と施策>

朝食をとらないと、脳が十分に働くことができません。「早寝 早起き 朝ごはん」運動を推進し、正しい生活リズムを身につけましょう。

- ・生活リズムを整えるための健康教育の実施

1日3食を規則正しく食べましょう。1回の食事ですできるだけ多くの種類の食品摂取に努め、塩分の取りすぎに気をつけましょう。

- ・成人向けや妊婦、親子に栄養教室・栄養指導の開催
- ・保健推進員活動で、「バランスのよい食事」などの栄養教室を実施*

成長にしたがって味覚は変化します。将来の豊かな食のためにも、嫌いなものでも調理を工夫して食べるように努めましょう。

- ・市ホームページで食に関する情報提供

肥満や痩せについての正しい情報を理解し、自分の体重に関心を持ち、適正体重の維持に努めましょう。

- ・健康フェアなどで生活習慣病予防のためのバランスのよい食事の普及啓発*

糖尿病や脂質異常症などの生活習慣病予防の知識を深め、バランスの良い食生活を送りましょう。

- ・生活習慣改善が必要な方などを対象に生活習慣病予防のための栄養教室及び栄養相談の開催
- ・健康フェアの「食生活改善コーナー」で、「食生活で生活習慣病予防」をテーマに展示などの実施*

それぞれの年代向けの栄養教室や栄養相談などを通じて、誕生から成人期にわたり、基本的な栄養の知識の習得と生活習慣の定着を図りましょう。

- ・子育て支援センターでのミニ講座及び栄養相談の開催
- ・母親教室（妊婦の栄養）、離乳食教室の開催
- ・高齢者を対象に老人クラブなどで高齢期の栄養についての講演実施*

「^{はちまるにいまる}8020運動(80歳で健康な自分の歯が20本ある)」発祥の地である愛知県で、歯の大切さの認識に努め、食べたら歯を磨きましょう。

- ・歯科健診・指導の実施及び8020運動の推進*

*：市民団体主催及び市共催の取組み

わ ... わすれない 食への感謝と心のふれあい（心）

私たちは、米・野菜・肉・魚などの命をいただいて生きています。食物は自然の恵みであるとともに、生産者をはじめとし、さまざまな人の手を介して消費者に提供されています。農作物をはじめとする食べ物がどのように作られていくかを学び、生産者に感謝し、食べ物を大切にすることが必要です。

また、家族と暮らしていても一人で食べる人（孤食）や、家族が別々の物を食べる人（個食）が増えているため、食を通じてのコミュニケーションが減少しています。みんなで食事をするすることで、家族や仲間食べる楽しさを体験し、また、それぞれの関わり方で食事づくりに参加することにより、人とのふれあいや会話がすすみ、心の安定をもたらします。

こうしたさまざまな体験を通じて、食べ物や生産者、自然へ感謝し、食を通じたコミュニケーションを深めることを目指します。

< 行動目標と施策 >

農業体験などを通じて食べ物の生産に関わり、生産者や自然への感謝の気持ちを育てましょう。

- ・ 市民が農にふれあう場として、農業体験事業・農業体験塾の開催、市民農園の開設・運営
- ・ 保育園や小学校で野菜や米の栽培などの体験学習の実施
- ・ 生産者と消費者の交流のためトマトやたけのこなどの収穫体験や研修会の開催*
- ・ 「親子イキイキも掘り大会」の開催*

食事ができることに感謝し、「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつや食事の姿勢、正しい箸の持ち方など、食事のマナーを身につけましょう。

- ・ 子育て支援センターでのミニ講座及び栄養相談の開催 再掲
- ・ 保育園や小学校で児童や生徒、教職員への食育の授業や指導の実施
- ・ 「食育」を盛り込んだ企画、幼児向けの「親子のつどい」を実施*

食育の日、学校給食週間などに関心を持ち、子どもたちに食べ物の大切さや、食には多くの人に関わっていることを伝えましょう。

- ・ 6月19日の「あいちを食べる学校給食の日」や1月の全国学校給食週間で地場産の農作物等の利用拡大を図り、校内放送等で周知
- ・ 広報いわくらで食育月間と食育の日についてのPR

「孤食」や「個食」をあらため、家族や友人と食卓を囲むように心がけ、楽しみながら食事をし、コミュニケーションの場としましょう。

- ・ 保育園や小学校の保護者へ給食だよりや給食の試食会で食に関する周知
- ・ 親子で楽しみながら食育について学ぶ教室として、6月の食育月間に「楽しく食育～きて・みて・ふれて・たべてみよう」の開催

家族のだれもが、買い物をしたり、調理したり、お皿を並べたり、洗いをするなど、家事を協力しあって食への関心を高めましょう。

- ・ 児童館母親クラブの会員と児童館の子どもたちが一緒に「つくって食べる集い」の実施*
- ・ 手打ち麺出張指導の開催*
- ・ 男性を対象とした栄養教室の開催*
- ・ 小学生を対象に「親子麺打ち体験」を開催*

*：市民団体主催及び市共催の取組み

科学技術の発展、流通の広域化など食を取り巻く環境は大きく変化しています。便利さを獲得した反面、遠距離輸送のための過度の化学物質の使用など新たな食品の安全性を巡る問題が発生しており、生産者の顔がみえる「地産地消」が見直されています。地元の食材を購入することにより、新鮮で安心なものを購入できるだけでなく、流通の面でのCO₂削減にもつながります。

また、食料自給率が低いにもかかわらず、食べ残しや消費期限・賞味期限等で廃棄する食品が家庭でも増加しています。大切な食べ物を無駄にすることのないよう、適正な量の食材の購入を心がけることが必要です。

地産地消の推進や消費生活講座等の参加を通じて、安全・安心な食環境を守り続けることを目指します。

< 行動目標と施策 >

地元でとれる農産物を販売している産直センターや野菜の広場などを積極的に活用しましょう。

- ・ 野菜の広場、JA 愛知北産直センターへの支援など地産地消の取り組み推進

生産者は消費拡大のためにも低農薬栽培などの研究に努め、農産物の質の向上を図りましょう。

- ・ 新ブランド野菜「ちっちゃイ菜」の推進や名古屋コーチンの振興に対する支援
- ・ 安全・安心な地元野菜の品質向上や振興のため農業フェアを開催*

CO₂削減・食料自給率拡大の観点からも、地産地消を心がけ、地元の食材を積極的に料理に活用しましょう。

- ・ 6月19日の「あいちを食べる学校給食の日」や1月の全国学校給食週間で地場産の農作物等の利用拡大を図り、校内放送等で周知 再掲

「もったいない」ということを意識しながら、使い切れない食材や作りすぎによる食べ残しの廃棄を減らすため、計画的な買い物・食事作りに努めましょう。

- ・生涯学習講座や消費生活講座等での料理教室の開催*

事業者は簡易包装に努め、消費者は買い物の際のマイバッグ持参、簡易なパックの商品を選択するなど限りある資源を大切にしましょう。

- ・適正包装やマイバッグ持参の普及活動の実施

食品の産地・栄養成分・添加物などの食品表示を確認し、食品の品質を見分ける力を身につけましょう。

- ・食品表示の見方などに関する生涯学習講座等の開催

*：市民団体主催及び市共催の取組み

生涯にわたって健康に過ごすためには、子どものころから正しい食習慣を身につける必要があります。おいしく食べて、健康になるための食事の基礎を家庭や地域・学校で学び、次の世代へ伝えていくことが望まれます。

食事により生活のリズムを保ち、メリハリのある生活を営めるよう、子どもから大人まで一人ひとりが、主体的に取り組む必要があります。それを支援するため、年代に応じた食育をさまざまな分野が連携し、互いに学びあうことが重要です。また、地元の伝統料理を味わったり、食に関わる行事を体験したりすることにより、食文化を継承することも大切です。

みんなが連携し、楽しみながら食への興味・関心を高めることを目指します。

<行動目標と施策>

保育園・幼稚園・学校等の給食だよりや食育指導で子どもに興味・関心を持たせ、家庭での啓発を図りましょう。

- ・ 保育園や小学校で児童や生徒、教職員への食育の授業や指導の実施 再掲
- ・ 保育園や小学校の保護者へ給食だよりや給食の試食会で食に関する周知 再掲
- ・ あゆみの家（障害児センター）母親教室や児童館幼児クラブ、母親クラブで食に関する講座や実習等の実施
- ・ 中学校やサークル活動から講習会などの講師の派遣依頼を受けて講座の実施 *

消費生活講座、栄養教室などへの参加を通じて、食の正しい知識の習得に努めましょう。

- ・ 生涯学習講座や消費生活講座等での料理教室の開催 * 再掲
- ・ 「食育」を盛り込んだ企画、幼児向けの「親子のつどい」を実施 * 再掲

ホームページや広報誌などの情報媒体を活用し、食の情報発信に努めましょう。

- ・ 広報いわくらで食育月間と食育の日についてのPR 再掲
- ・ 「保健センターだより」で、幼児期の食育について紹介
- ・ 市ホームページで食に関する情報提供 再掲

市民全体で食に関心を持ち、食育に対する知識を深めましょう。

- ・親子で楽しみながら食育について学ぶ教室として、6月の食育月間に「楽しく食育～きて・みて・ふれて・たべてみよう」の開催 再掲
- ・保健センター主催の幼児を対象とした「楽しく食育」において、親子で調理や試食のコーナーを担当*
- ・いろいろな国の料理教室を開催*

岩倉にあるすばらしい伝統料理や郷土料理を次の世代に残していきましょう。

- ・わらを使った縄ないやもちつきなどの実施による世代交流*
- ・名古屋コーチンとちっちゃイ菜を使った料理教室の開催*

食育を通じたネットワークの構築を図り、情報交換に努めましょう。

- ・食生活改善推進員活動及び保健推進員活動の活動支援や研修会・学習会の開催*

食育推進のため、食生活改善推進員や保健推進員、婦人会などの各種団体が連携した継続的な取り組みを図りましょう。

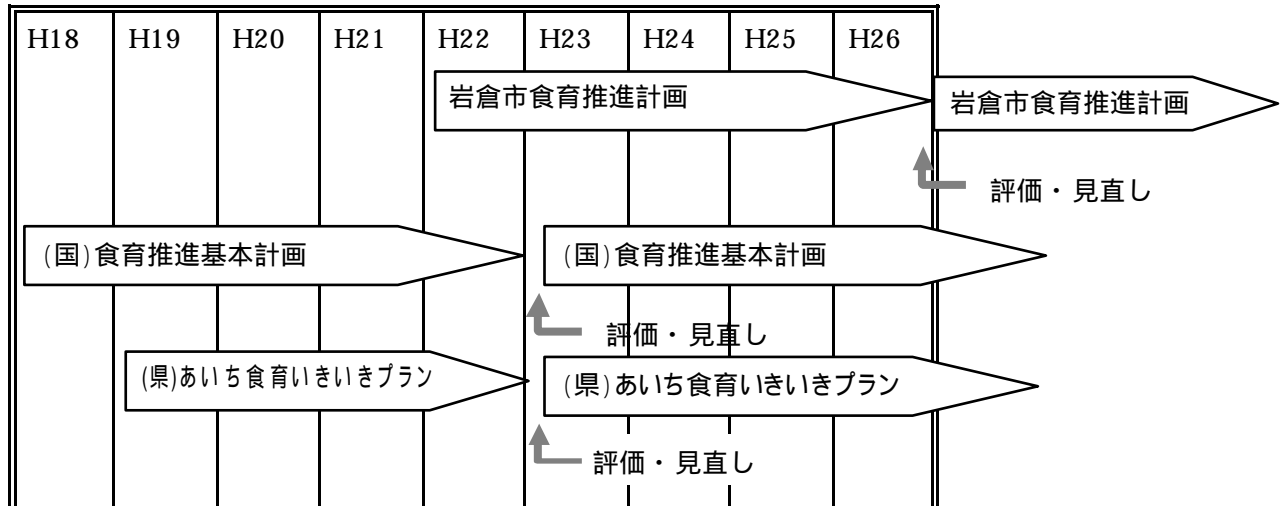
- ・保健推進員活動での、栄養教室「メタボリックシンドローム予防」や幼児向けの教室「食育」で講師の派遣*

*：市民団体主催及び市共催の取り組み

第4章 計画期間と推進体制

1 計画期間

計画推進期間は平成22年から平成26年度までの5年間とする。

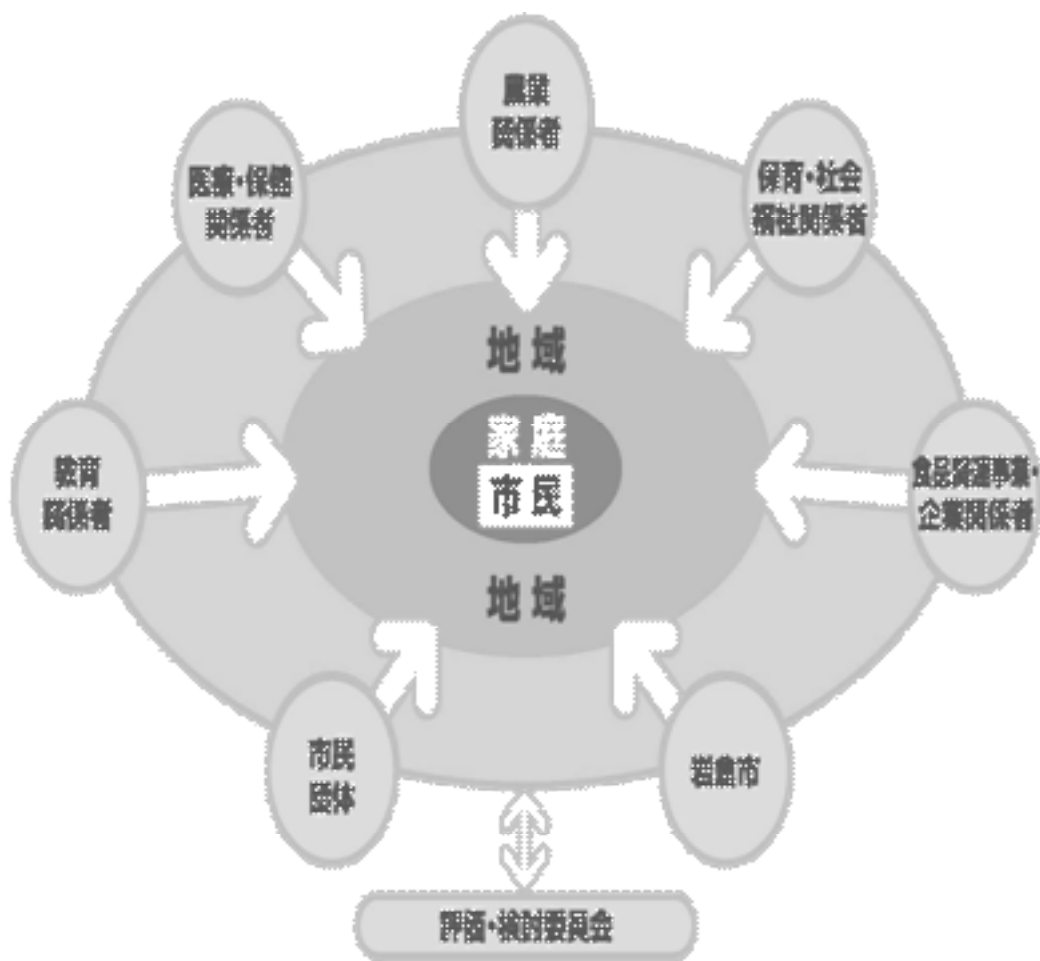


2 計画の推進体制

本計画で掲げる食育の基本は、市民一人ひとりが食の大切さを理解し、家庭で主体的な取り組みを実践していくことです。

そして、農業、医療・保健、保育・社会福祉、教育、食品関連事業・企業関係者、市民団体などさまざまな分野が連携し、共に家庭での食育の取り組みの支援に努めます。

なお、本計画を実効性のあるものにするために、各種施策の実施状況、進捗状況について定期的に把握する必要があります。そこで、計画の進行管理及び評価を行う組織を設置し、検討を行います。



参考資料

岩倉市食育推進計画策定委員会設置要綱

(目的及び設置)

第1条 本市における食育に関する取り組みを総合的かつ計画的に推進していくことを目的に食育推進計画を策定するため、岩倉市食育推進計画策定委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(組織)

第2条 委員会は、委員10人以内で組織する。

2 委員は次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

(1) 生産・流通関係者

(2) 教育・子育て関係者

(3) 健康推進関係者

(4) 地域活動関係者

(5) その他、市職員の中から市長が指名する専門職

3 必要に応じ、委員会内に専門部会を設置する。

(委員長)

第3条 委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを選任する。

2 委員長は会務を総理する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(会議等)

第4条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 委員長は、必要に応じ、委員会に関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(任期)

第5条 委員の任期は、食育推進計画策定の日までとする。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、商工農政課において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成21年8月6日から施行する。

岩倉市食育推進計画策定委員会委員名簿

役 職	氏 名	所 属
会長	船橋哲夫	J A愛知北産直センター 農作物産直部会 委員長
職務代理	春日井寧	愛知北農業協同組合 岩倉支店長
	千村晶子	消費生活モニター 会長
	船橋利恵	給食センター運営委員会 委員長
	関戸 誠	子ども会連絡協議会 会長
	石黒光代	食生活改善推進員 代表
	小笠原三代子	岩倉市婦人会 会長
	城谷 睦	健康課(保健師)
	香川千秋	児童家庭課(管理栄養士)
	野田亜紀子	学校教育課(栄養教諭)

: 起草委員

事務局

健康課長	山北由美子
児童家庭課長	小川信彦
学校教育課長	武藤 健
商工農政課長	今枝幹夫
商工農政課農政グループ長	石黒光広
商工農政課農政グループ	神山秀行

計画策定の経過と体制

計画の策定にあたり、岩倉市食育推進計画策定委員会設置要綱に基づき策定委員会を設置し、これを基に起草委員会で協議を重ねてきました。

	委員構成	開催日	内容
策定委員会	委員 (10名)	平成21年 9月3日	委員委嘱状交付
			委員長選出
			食を取り巻く状況について 講師：愛知県尾張農林水産事務所農政課 企画・食品表示・団体指導グループ 宮崎裕代氏
			今後の策定方法及び策定スケジュール調整
			計画のテーマの提出依頼
		9月29日	岩倉市の食育関連活動状況報告
			市の実施したアンケート結果の提示
			計画のテーマの検討・決定
			起草委員選出
		11月12日	基本理念、基本方針の検討・決定
		12月7日	行動目標、施策の検討・決定
			概要版の構成の決定
		12月22日	食育推進計画(案)の検討・決定
概要版の決定			
平成22年 1月6日	市長報告		
起草委員会	委員 (5名)	10月9日	キャッチフレーズ、基本理念の検討
			計画の骨子の検討
		10月30日	基本方針の検討
		11月2日	基本方針の検討

検討委員会 計画の策定、推進に関する事項を審議する

起草委員会 検討委員の中から選任されたもので構成し、計画の草案を作成する



岩倉での取り組み



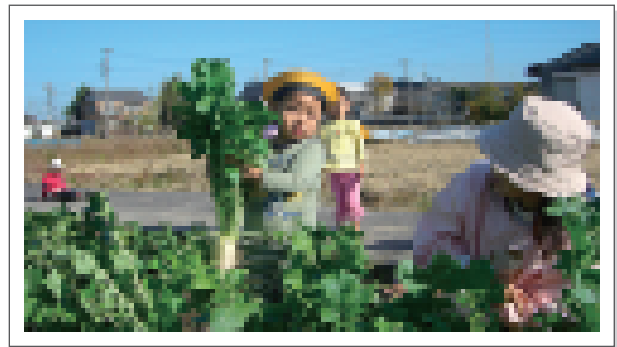
親子イキイキも掘り大会



名古屋コーチンとちっチャイ菜の料理教室



健康フェア バランスのよい食事



西部保育園 野菜の収穫体験



稲づくり農業体験



楽しく食育 ~きて・みて・ふれて食べてみよう~



栄養教室 男子厨房に入ろう



五条川小学校「えいよう戦隊★すくすくレンジャー」

発行／岩倉市

事務局／建設部 商工農政課

〒482-8686 岩倉市栄町一丁目66番地

電話:0587-38-5812 FAX:0587-66-6100

E-mail:shokono@city.iwakura.aichi.jp